

## 第三者評価結果（小規模住居型児童養育事業）

種別：	小規模住居型児童養育事業
①第三者評価機関名	
(一社)社会福祉事業評価機構	

### ②施設名等

名称：	ファミリーホームいちご
施設長氏名：	清田 縁永
定員：	6名
所在地(都道府県)：	広島県
URL：	

### ③実施調査日

開始日	2022/12/6
評価結果確定日	2023/2/26

### ④総評

#### 【特に評価が高い点】

##### ①養育・支援の質の担保が図られている点

「安心できる居場所づくり」や「できるだけ多くの経験をさせてあげたい」という施設の方針のもとに運営されています。長年、児童養育に携わってこられた、施設長を含め2名の経験豊富な職員のリードにより、子どもたちに自己決定を促し、不登校の状況を改善するなど質の高い小規模養育が実践されています。また、子どもからのヒアリングにおいても、「ここに来て良かった」、「(退所後も)帰って来る場所ができた」などのコメントからも支援の質の高さを窺い知ることができました。

##### ②こども食堂の実施

こども食堂の実施により、困難なケースの発掘から支援に繋げる役割、地域交流、アフターケアなど、様々な意図を持って実施されています。法人内で5か所のこども食堂を展開されていますが、ファミリーホームいちごではホームを提供して実施されることにこだわりを持って、今後の展開に繋げていきたいと考えておられます。

##### ③課題の達成率を数値化している点

自立支援計画の目標を評価する際に、課題の達成率をパーセンテージで数値化することで評価されています。不登校の子どもたちのケースにおいては、月に一回程度の登校であったのが、80%程度の登校率となっていました。数値化する事により、支援の効果を数量的に判断されています。

#### 【改善が求められる点】

①「どれだけ寄り添えるか」というテーマに対して、密に関わることで支援の質が担保されている反面、子どもたちが退所後に躓いた際に乗り越える力が養われないのではないかと感じるようでもあります。今後は、この課題にも向き合い、支援の質の担保を図りながら、子どもたちの在園時に問題解決能力をどの様に育てていくか?という、課題意識を持って支援を展開していきたいとのことでした。

##### ②アフターケア体制の整備

多くの課題を抱えながら社会に馴染んでいく子どもたちを、退園後もフォローアップしながら自立という次のステップへ繋がるような、アフターケアの在り方を模索されています。

##### ③施設方針や各種実践内容の書面化

支援を展開される中で、概ね文書化されていることが確認できました。しかしながら、ホームとしての基本方針など、文書化に至っていない点もありますので、今後の取り組みに期待いたします。

### ⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

今回、初めて第三者評価をして頂きました。ホームの現状を知っていただき、ホームの課題を見直す良いきっかけをもらえたと思います。今回の評価に満足することなく、日々の支援の仕方、スキルアップを含めて日々精進を重ね、子ども達の支援に反映出来るように努力していきたいと思っております。ありがとうございました。

### ⑥第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果（小規模住居型児童養育事業）

### I 福祉サービスの基本方針と組織

#### I-1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立されている。	第三者 評価結果
① 理念が明文化されている。	b
② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) パンフレットには法人の理念、事業計画には基本方針、自立支援計画には短期目標が記載されているが、整合性が保てているとは言えないと思われました。しかし、ホーム長の思いが日々のケアに反映されており、職員が少ないため、日常的な情報共有に加えて会議などにより職員がどう動くべきであるかについては、十分に共有されていると思われま。</p>	

#### I-1 理念・基本方針

(2) 理念や基本方針が周知されている。	第三者 評価結果
① 理念や基本方針が職員に周知されている。	b
② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 理念や基本方針の明示は十分周知されているとは言えませんが、子どもたちに理解できるような表現で説明するよう努めておられます。家族はそれぞれ個別に事情を抱えているため、必要性や効果を考えて現実的な対応を行っておられます。</p>	

#### I-2 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
① 中・長期計画が策定されている。	c
② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) ホーム長から中長期の構想は職員にも共有されており、理事長との意見交換も定期的に行われています。しかしながら中長期を見据えて各年度での具体的な計画作成に至るまで落とし込んでいません。</p>	

#### I-2 事業計画の策定

(2) 事業計画が適切に策定されている。	第三者 評価結果
① 事業計画の策定が組織的に行われている。	a
② 事業計画が職員に周知されている。	a
③ 事業計画が利用者等に周知されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 事業計画の策定や評価、見直しは職員全員で共有しながら行われています。職員とはほぼ毎日情報共有できており、事業計画も周知されていると言えます。利用者や家族については年齢や諸事情を考慮して必要に応じた説明にとどまっておらず周知されていません。事業計画の評価については、詳細に記述され、より厳しい視点で評価されています。しかし計画当初より課題を達成可能な内容とされることで、より実態に即した事業計画になるものと思われま。</p>	

#### I-3 ホーム長（管理者）の責任とリーダーシップ

(1) ホーム長（管理者）の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① ホーム長（管理者）自らの役割と責任を他の職員に対して表明している。	a
② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) ホーム長は経験も豊富で、ファミリーホーム運営に関する法令や関連する分野については概ね理解されています。他の養育者に対しても新任職員等については日常的に支援する中で、必要に応じた周知を行っておられます。また、職務分掌にも役割や責任の明確な記述がなされています。</p>	

### I-3 ホーム長（管理者）の責任とリーダーシップ

(2) ホーム長（管理者）のリーダーシップが発揮されている。	第三者 評価結果
① 質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	a
② 経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            管理者および経験豊富な2名の職員により、支援・養育の質が担保されています。            また、経営の主要な部分については法人本部で行われており、ホーム長は施設管理を中心に関与されています。他の養育者に対しての労務管理は行われており、働きやすい環境づくりに配慮されていることがよくわかりました。</p>	

## II 組織の運営管理

### II-1 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	c
② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	b
③ 外部監査が実施されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            毎月一回以上、法人内の管理者が集まって会議や茶話会などが開催されており、事業経営等にかかる諸問題の報告や相談がなされています。そこでの議事録を職員が閲覧できる形で周知されています。年に一度の事業計画策定時には、それらの情報も反映されているが、経営環境の変化に対する対応については、ホーム長や養育者としては関わっているとは言えない。</p>	

### II-2 人材の確保・養成

(1) 人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	c
② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            法人単位で人事考課の必要性および今後の導入について、議論されているとのことでした。</p>	

### II-2 人材の確保・養成

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	第三者 評価結果
① 職員の就業状況や意向を把握し、必要があれば改善する仕組みが構築されている。	b
② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            ホームも小規模であり、ホーム長や理事長との距離が近く、直接相談しやすい環境にあると思われます。そういった利点を生かし、今後、職員の就業状況に対する仕組みの構築に期待致します。</p>	

### II-2 人材の確保・養成

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	第三者 評価結果
① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	c
② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され、計画に基づいて具体的な取組が行われている。	c
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            施設の特性を鑑みてOJTによる職員育成が基本となっており、きめ細かい教育が実施されています。また、Off-JTも事例を通じた支援方法や、実際の児童のケースを使った事例検討がなされており、養育者にとって即効性の高い実践的な研修内容となっています。今後の課題としては実施計画の作成や、それに基づいた研修等を実施することが期待されます。</p>	

## II-2 人材の確保・養成

(4) 実習生の受入れが適切に行われている。	第三者 評価結果
① 実習生の受入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、積極的な取組をしている。	c
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 社会福祉士の実習の受け入れが可能な状況にはありますが、現状受け入れはありません。マニュアルなどの整備についても、今後の課題とされています。	

## II-3 安全管理

(1) 利用者の安全を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 緊急時（事故、感染症の発生時など）における利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a
② 災害時に対する利用者の安全確保のための取組を行っている。	a
③ 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) ヒヤリハット・事故報告書は詳細な内容まで記録されており、積極的に課題解決しようという思いが感じられます。リスクを把握して対策を講じる姿勢が窺えます。 定期的な避難訓練を実施されており、食料品の備蓄においては、3日分を想定され、消費期限もリスト化し管理されています。	

## II-4 地域との交流と連携

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	a
② 事業者が有する機能を地域に還元している。	a
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	c
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 地域の理解を得るために、法人としての広報活動や地域との交流イベントに加えて施設独自の取り組みを行っておられます。例えば、（法人内の他のホームでは、公民館等を利用して子ども食堂を実施）子ども食堂は公民館等ではなく、ホームの庭を活用して行い、地域住民に対してホームの理解を促進したり、参加者から相談を受けやすいよう配慮されています。 ボランティアの受け入れに関しては、今後充実化を目指したい意向もあり、子ども食堂を通じたボランティアや、学習ボランティアの確保をイメージされています。	

## II-4 地域との交流と連携

(2) 関係機関との連携が確保されている。	第三者 評価結果
① 必要な社会資源を明確にしている。	c
② 関係機関等との連携が適切に行われている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 毎月一回程度、ケース検討会議を開き、児童相談所に参加を要請されています。	

## II-4 地域との交流と連携

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	第三者 評価結果
① 地域の福祉ニーズを把握している。	b
② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 法人としては地域の福祉ニーズに基づく様々な活動が行われています。ホーム単独では子ども食堂の運営を定期的に行っておられます。	

### Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

#### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)                      マニュアルの整備は行われていますが、それに基づいた支援というよりもホーム長等に相談しながら支援が展開されているといった印象を受けました。この辺りは、実態に即した内容に整備されていくことが望ましいものと思われまますので、今後の課題と捉えていただくことを期待致します。                      子どもからのヒアリングにおいては、プライバシーは守られているとの回答がありました。</p>	

#### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

(2) 利用者満足の上昇に努めている。	第三者 評価結果
① 利用者満足の上昇を意図した仕組みを整備し、取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)                      定期的な子ども会議にて意向を汲み取る機会の確保に努められています。会議などでの取り組みよりも、日常の関りのほうが効果的であるとのことで、支援の質の高さも伺えます。</p>	

#### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	第三者 評価結果
① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a
② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	b
③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)                      関りにおいて、子どもたちが自分の意見が表現しやすい雰囲気づくりを心掛け、子どもたちの変化に気付けるような関りを持つことを意識されています。子ども会議も定期的に行っておられますが、先述した日常の関りにおいて伝えることの方が多そうです。                      また、子どもの意向(内容としては、苦情ではなく要望レベル)について、どんな些細な内容でも、ヒヤリハットの記録に残すなどの取り組みもなされています。</p>	

#### Ⅲ-2 サービスの質の確保

(1) 質の向上に向けた取組が組織的に行われている。	第三者 評価結果
① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	b
② 評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)                      ホームを開設されて今回が初めての自己評価であったため、今回の第三者評価も参考にさせていただきなどして、今後、評価基準の理解に努め、活用されることが望ましいと考えます。</p>	

#### Ⅲ-2 サービスの質の確保

(2) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
① 提供するサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	b
② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)                      標準的な実施方法の文書化については確認できました。しかしながら、実際に行われている支援の実施方法については、文書化された内容を凌ぐと言っても過言でないような養育・支援を展開されているといった印象を受けました。                      時間はかかるかとは思いますが、実際に行われている支援の内容を文書化されてみては如何でしょうか。</p>	

### Ⅲ-2 サービスの質の確保

(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		第三者 評価結果
①	利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a
②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a
③	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)          法人本部からの指示(法令関係を遵守した規程)を忠実に守り、日常の記録は細かく記載されています。          適切に、記録が残されているか?文章表現なども含めて、記録のチェック機構も機能しています。</p>		

### Ⅲ-3 サービスの開始・継続

(1) サービス提供の開始が適切に行われている。		第三者 評価結果
①	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	a
②	サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)          法人とホームの役割分担ができており、広報活動等は法人本部が行っておられます。          理事長は、積極的にメディアを活用して法人理念やホームの紹介を行っておられます。</p>		

### Ⅲ-3 サービスの開始・継続

(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		第三者 評価結果
①	事業者の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)          他の支援機関に対する情報提供やアフターケアは適宜行っておられますが、マニュアルは整備されていません。</p>		

### Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

(1) 利用者のアセスメントが行われている。		第三者 評価結果
①	定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)          アセスメントの様式が整備されていません。長年の経験や養育者同士の情報交換が常になされており、児童相談所等からの情報等によって代替されているため、計画策定に支障はみられないが、将来的に整備されるのが望ましいかと思われます。</p>		

### Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。		第三者 評価結果
①	サービス実施計画を適切に策定している。	b
②	定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)          サービス計画の手順が明示されており、適切に作成、実施されています。作成時にホーム以外の関係者と合議されてはいないが、常に情報交換されており、計画に反映されていると言えます。短期目標に対して数値化しているため、以前との比較や成果がわかりやすく、子どもの主体性を引き出す要因の一つになっています。</p>		

## 第三者評価結果（小規模住居型児童養育事業）

### A-1 利用者の尊重

(1) 利用者の尊重		第三者 評価結果
①	子ども自身が自分たちの生活全般について自主的に考え、ホームにおける生活改善ができるよう取り組んでいる。	a
②	ホームでの生活及び援助について事前に説明し、子どもが主体的に決定できるよう支援している。	a
③	多くの生活体験を積ませる中で、子どもがその問題や事態の自主的な解決等を通して、健全な自己の成長や問題解決力を形成できるよう支援している。	a
④	多くの人たちとのふれあいを通し、子どもが人格の尊厳を理解し、自他の権利を尊重し共生できるよう支援している。	a
⑤	子どもの発達に応じて、本人に出生や生い立ち、家族の状況等を適切に知らせている。	c
⑥	被措置児童等虐待防止と早期発見に取り組んでいる。	b
⑦	子どもや保護者の思想や信教の自由は、他の子どもや保護者の権利を妨げない範囲で保障している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            発達段階や年齢に応じて、子どもたちの主体性を尊重した関わり方を心掛けて支援されています。また自然体験等の機会を作り積極的に外出し、ホームを退所する子どもたちが新たな生活の場で困らないよう、信頼関係を構築しながら支援されています。</p>		

### A-2 日常生活支援サービス

2-(1) 支援の基本		第三者 評価結果
①	子どもと養育者らの信頼関係を構築し、個々の子どもの発達段階や課題に考慮し援助している。	b
②	子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            安心して生活できるように子どもたちを受容した関りを持たれています。日常生活を一緒に楽しみながら過ごすことで信頼できる大人の存在を認識してもらい、愛着障野害の克服を念頭において支援されています。</p>		

2-(2) 食生活		第三者 評価結果
①	食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも配慮している。	a
②	発達段階に応じて食習慣を習得するための支援を行っている。	a
③	子どもの生活時間にあわせて食事の時間を設定している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            入所前は一人で食べたり放置されがちであった食生活のイメージを、温かく家族みんなで楽しんで食事をすることに力を入れておられます。また、自ら手伝いを申し出た子どもと一緒に調理し、常に出来たての家庭料理を提供するよう努めておられます。</p>		

2-(3) 衣生活		第三者 評価結果
①	衣服は清潔で、体に合い、季節にあったものを提供している。	a
②	子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるよう支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            発達段階や年齢に応じて、自分で洗濯などができるよう働きかけ、また年齢、季節、TPOに合った衣服の選択が出来るように支援を行っておられます。</p>		

2 - (4) 住生活	第三者 評価結果
① 住居全体が生活の場としての安全性や快適さを配慮したものになっている。	a
② 発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう支援している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 発達段階や年齢に応じて、自分で掃除などができるよう支援されています。	

2 - (5) 衛生管理、健康管理、安全管理	第三者 評価結果
① 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、適切に対応している。	a
② 発達段階に応じ、身体の健康を自己管理できるよう支援している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 中学生までは通院同行、高校生からは初回のみ同行することを基本として自ら健康管理できるように支援されています。医療機関や訪問看護師、スクールカウンセラー等と連携して子どもの心身の状態を把握して必要な支援を行っておられます。	

2 - (6) 問題行動に対する対応	第三者 評価結果
① ホーム内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないようホーム全体に徹底している。	a
② 子どもの問題行動に適切に対応している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 些細な案件もヒヤリハット報告書に記載し、結果を共有されています。問題が生じないように居室を調整したり、関わりを深めたり、関係者と連携して情報交換を行っておられます。問題が生じた際には児童相談所に相談して迅速に対処しておられるため、これまで大きな問題は生じていないとの事でした。	

2 - (7) 自主性、自律性を尊重した日常生活	第三者 評価結果
① 子どもが余暇を有効に活用できるよう配慮している。	a
② 買い物や外出、旅行などは、子どもとともに計画し、実施している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう援助している。	a
④ ホームが地域に開かれ子どもが友人や地域との関係を深められるよう支援している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 子ども会議を定期的で開催されています。特に長期休暇前には、行ってみたいところやどのように過ごしたいのか、子どもたちの思いが実現できるように支援されています。また、テレビや漫画など余暇に行いたいことが、一定のルールの下で自由に行えるように子どもたちの意見を尊重して対応されています。	

2 - (8) 学習支援、進路指導等	第三者 評価結果
① 学習環境を整備し、学力に応じた学習支援を行っている。	a
② 学校との連携により子どもの状況に応じた支援を行っている。	a
③ 学校を卒業する子どもの進路について、幅広い選択肢のもと、「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 進路についても子どもの主体性を尊重し、学校など関係機関と相談のうえで決定するよう努めておられます。卒業までに愛着形成ができることを目的として支援されており、施設を退所した後も、定期的に連絡をとり障壁はないか確認するなどして、アフターケアに努めておられます。	

2 - (9) メンタルヘルス	第三者 評価結果
① 虐待を受けた子どもなど心理的なケアを必要とする場合は、心理的な支援ができるよう関係機関と連携している。	a
② 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性について正しい知識を得る機会を設けている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 心理や保健の専門家と連携して、子どもたちの精神的な安定が保てるように支援されています。学校などで落ち着かない子どもも、ホーム内では穏やかに過ごしていることや、登校率の激的な改善などが支援の質の高さの裏付けとなっています。	

2 - (10) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所等と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり家族からの相談に応じる体制づくりができています。	b
② 関係機関と連携し、子どもと家族の関係づくりのために面会、外出、一時帰省などの機会を保障している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  子どもや児童相談所の意見を尊重して家族と関わっておられます。実際にはあまり関わることは少ないが、家族再統合に向けて機会あるごとに子どもたちの情報を共有したり、養育相談などに取り組まれています。</p>	